

第8回農協系統の事業・組織に関する検討会議事要旨

1. 時間：平成12年6月23日(金) 15:00~17:00

2. 場所：農林水産省4階第2特別会議室

3. 出席者：委員

岩原 紳作	東京大学大学院法学政治学研究科教授
奥村 一則	富山県・農事組合法人サカタニ農産代表理事
岸 康彦	愛媛大学農学部教授
後藤 康夫	農林水産長期金融協会会長
佐藤 晴登	J A山形おきたま代表理事組合長
佐藤三千男	読売新聞論説委員
生源寺真一	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
森本 一仁	熊本県・農業者
山田 俊男	全国農業協同組合中央会専務理事
和田 正江	主婦連合会会長

専門委員

篠塚 勝夫	全国農業協同組合中央会常務理事
永井 和夫	全国信連協会専務理事
西村 博之	全国共済農業協同組合連合会専務理事
橋本 勝好	農林中央金庫専務理事
堀 喬	全国農業協同組合連合会専務理事

農林水産省

経済局長、審議官、金融課長、農業協同組合課長、組織対策室長

4. 議題：ヒアリング結果を踏まえた自由討議

5. 議事内容

事務局よりこれまで4回にわたって実施したヒアリングの概要について説明を行った後、自由討議に入った。

委員等からの主な意見・質問

- ・ ヒアリングについては、ごもっともという感想。これを踏まえて農協系統としても十分検討してまいりたい。
- ・ J Aが本当に必要なのかと、初回会合以来自問しているが、このヒアリングを通じて自分の感想・結論として、J Aは必要であると思っている。
今のままのJ Aの体制では、必要ではなくなってしまうので、今の時点で改革をして良い方向に変わっていけば、自分たちにとってJ Aは必要なものとなっていくと思う。
- ・ 今のJ Aは、組合員イコール当然お客さんと思込んでおり、このため経営努力が欠けている。この考え方を切り替えていくべき。変わりさえすれば、J Aは組合員にとって必要なものとなる。
- ・ ヒアリング全体で営農指導の重要性を強調する人が多かった。その点については農協法の中にもこの趣旨を明確にしていくことも必要。また、自立しよう

- と思っている農家や法人に対しては、多少の費用を徴収してもよいから、経営コンサルタント等を行うべきではないか。
- ・ 改革の進んでいる先進的なＪＡにおいては、昔のような組合員悪平等という考え方はなく、大口農家にメリットを与えることを当然のことと考えている。
 - ・ ＪＡが農業経営を行うことも含めて検討すべき。
 - ・ ＪＡが農業経営等いろいろな事業を行って、経営がうまくいかなかった場合、その赤字の処理はどうするのか。いろいろの事業の赤字が、信用事業にくい込んでいき困ったことになるのではないかと。ＪＡがきちんと自己責任で経営を行い、これをきちんとチェックできるような体制にすべきではないか。
 - ・ ヒアリング結果については、基本的に自分たち全国団体も同じ意識。これにどう対応していくのが我々の課題。大口利用者へのメリットも含めて、きちんと対応する方向で進めていきたい。
 - ・ ヒアリングの結果、赤字事業の廃止を求める声が多かったのが強い印象。従来のようなどんぶり勘定で経営を行うことが許されなくなっている。組合員も農協経営にシビアになってきており、農家の負担となるような赤字事業の継続は許されなくなっているのではないかと。
 - ・ 現在の農協の経理では、事業ごとの区分経理が不十分。区分経理をきちんと行い、赤字なら農家にきちんと説明し、理解を得た上で、経営を進めることが必要。
 - ・ 現在、各地大会議案についての組織討議が行われているが、その中での広域集中システムについての反応は、まだ討議を始めた段階なのでわからない。しかしながら、自分たちとしては少しでも安い生産資材を供給し、販売事業についてもコストを引き下げていく考え。従来からの仕事の仕方を相当変えていかなければならないし、ＩＴ革命によってそれが可能となってきたこともあるので、この機会に積極的に起こしていきたい。
 - ・ ＪＡとしては、地域農業の振興の司令塔として機能をきちんと果たしていくことが必要。
 - ・ ヒアリングの結果をみると、ＪＡの運営に青年、女性、農業法人の声が十分反映されていないという意見が多い。このような人たちの意見を汲み上げるチャンネルを考えるべき。全中が新しいチャンネルを考えるのか、すでに導入されている経営管理委員会の幅を広げるのかを含め検討が必要。
 - ・ 役員の定年制、議員との兼職兼業禁止等については、自分たちの協同組織なのだから、自分たちできちんと決定して自立すべき。行政がつくる模範定款例についても、むしろ全中が作り、それを県や地域に見合った形に修正することが適当なのではないか。模範定款例を役所が示すのではなく、系統自らが作るようにしていく時期なのではないか。
 - ・ 信用事業については、急いで改革しないと手遅れになるのではないかと。
 - ・ ヒアリングで、これだけの問題点が指摘される組織も珍しい。しかも、それぞれの問題点は以前から指摘されてきている。問題点が明らかになっていたのに、今まで、何をやってきたのかというのが率直な印象。

- ・ 良いＪＡもあれば、悪いＪＡもある。一律にＪＡが同じという訳ではない。経営感覚をもっているＪＡは経営がうまくいっている。よくやっているＪＡの事例をスタンダード化して、紹介していく取組みも必要。
- ・ ＪＡ改革を考えると、ＪＡがだれのための組織なのかということを出発点としてよく考えていくべき。
討議の後、次回の開催の日程につき説明を行い、閉会した。